

## \* カラスに襲われない方法

2011 年 4 月ごろから太陽塔望遠鏡に向かう道路でカラスに襲撃されるようになった。どこかに巣作りを始めたなと思い、高い木の上を見回すと 20cm 望遠鏡赤道儀室から 65cm 赤道儀室の東西の道路から塔望遠鏡に向かう道路を南に向かい塔望遠鏡に向かって右に折れる辺りの高い所で 2 本にわかれたサワラの木のでっぺん近くにカラスの巣(写真 1)が見えた。今年はこの巣の 30m ばかり南の斜面の落葉樹の高いところに去年の巣があることに気がついていて、今年は道路に近いところに巣をつくったようである。



写真 1

筆者は、通常の終日に限らず土曜、日曜も塔望遠鏡の半地下の分光器室の除湿機の水の始末と温度・湿度の測定で朝夕、塔望遠鏡に通っているのだが、毎日のようにカラスが襲ってくるのである。頭をかすめ、羽が触るほどの近さを鋭いくちばしで向かってくる。身がすくむほど恐ろしいのだが、実際に鋭いくちばしで突かれたことはない。さすがにそこまですれば強い反撃があることが分かっているのかもしれない。5 月末のある日、塔望遠鏡の暗室に残っている広口薬品瓶が欲しいという友人を案内して塔望遠鏡に向かっていると、巣立ちをした 2 羽の幼鳥が地面に降りており、その近くに近づいた際、親鳥の 2 羽が猛然と襲いかかってきた。それでも建物の中に入った。ビンを持って出た時には幼鳥は見当たらなかったが、親鳥は筆者と友人に向かって執拗に猛然と襲いかかるのである。友人は恐

怖のあまり、腕に食い込むほどの力で筆者にしがみついていた。2人で身をかがめて何とか攻撃に耐えながら森を抜けた。という経験をしたのである。

筆者は、朝は5時~6時の早朝、自転車で除湿機の水の始末に通っているが、毎日のようにカラスに襲われていた。音もなく後ろから滑空してくるので頭の近くで羽音がして気がつくという急襲なので身をすくめるのであるが、何とも言えない恐怖である。雨の日もかまわず襲ってくるのだが、傘をさしているので天気の良い日ほどの恐怖感はない。

こんなことを4月から6月にかけて、毎日のように恐怖を感じながら歩いていたが、ふと考えてみた。カラスは必ず後ろから音もなく襲ってくる。枝にとまったカラスを睨みつけやり過ごして、しばらくすると襲ってくるのだから、カラスをやり過ごしたところから後ろ向きに歩けばカラスをにらみ続けたままで襲ってくることはないことに気がついたのである。しかし、これは枝にとまったカラスを見かけた場合にしか有効でないし、ひどく歩きにくい。そしてまた考えた。枯れ枝を持って頭近くにかざして歩けば頭を狙われることはなかろうと。実際枯れ枝をかざしながら歩くと襲っては来なかった。傘を持っている日には閉じた傘をかざして歩けばいいことにも気がついた。

何とも遅い学習で、2~3か月もの間、カラスの襲撃に身をすくめて歩いた道を今は枯れ枝をかざして歩いているのである。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)